

資料3 外国語WGにおけるとりまとめのイメージ(案) 別添資料

- 別添1 学習指導要領等の構造化のイメージ(仮案・調整中)
- 別添2 資質・能力の三つの柱に沿った小・中・高を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力の整理
- 別添3 (参考)資質・能力を支える基盤としての言語能力向上の観点と外国語教育における改善・充実の方向性
- 別添4 資質・能力を育成する学びのプロセスの要素イメージ
- 別添5 「英語」において特に重視すべき思考力・判断力・表現力等の例
- 別添6 小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について
- 別添7 小・中・高等学校を通じた外国語教育のイメージ(案)
- 別添8 外国語教育の目標と学習過程の全体像(案)イメージ
- 別添9 外国語教育における「見方や考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ案)
- 別添10 次期学習指導要領の3・4年生の年間指導計画 イメージ(案)たたき台
- 別添11 次期学習指導要領の5・6年生の年間指導計画 イメージ(案)たたき台
(参考)Hi, Friends ! 1を活用した年間指導計画例の概要
- 別添12 高等学校における英語科目の改訂の方向性として考えられる構成(たたき台)
- 別添13 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標【技能ごと】(イメージ)たたき台
- 別添14 外国語教育における観点別評価・たたき台(イメージ案)
- 別添15 外国語教育におけるICTの活用について(たたき台)

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけでなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないか。

人格の完成を目指し、平和で民主的な
国家及び社会の形成者として必要な資
質の育成を期す

教科横断的・総合的に育成すべきさまざまな資質・能力

教科等間の往還 (カリキュラム・マネジメント)		個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
	教科学習	各教科に固有の知識や 個別のスキル	各教科の本質に根ざした問題解決 の能力、学び方やものの考え方	各教科を通じて育まれる情意、 態度等
	総合的な学習	(各学校で設定)	横断的・総合的な問題解決の能力	実社会における横断的・総合的な 問題解決に取り組む態度
	特別活動	集団の運営に関する方法や 基本的な生活習慣等	よりよい集団の生活や 自己の生活習慣等を形成していく 能力	自己の役割や責任を果たす態度等
	道徳教育	道徳的価値 ○幼児教育においては、主体的な活動である遊びを通じて総合的に指導。	道徳的判断力	道徳的心情、 道徳的実践意欲と態度

アクティブ・ラーニングの視点に立った
深い学び、対話的な学び、主体的な学びの実現

小・中・高を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)</p>
<p>外国語活動 小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語への慣れ親しみ ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること 外国語を聞いたり、話したりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて言語の大切さや、文化の違いに気付く ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
<p>外国語 小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の仕組みへの気付き（音、単語、語順など） ○聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 外国語を読んだり、書いたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>外国語 中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の働き、役割について理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている など ○外国語の4技能(「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」)に関する知識・技能を実際のコミュニケーションの場面で運用 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力 ○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 など

小・中・高を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)</p>
<p>外国語 高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の働きや役割などの理解 ○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識 ○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を4技能（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）において実際のコミュニケーションで運用する技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面・目的・状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や・社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりするコミュニケーション能力 ○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、場面・目的・状況等に応じて、外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度 <p style="text-align: right;">など</p>

言語力の育成方策について (報告書案) (平成19年8月16日言語力育成協力者会議配付資料)

(1) 言語の果たす役割

- ①知的活動(特に思考や論理)の基盤、②感性・情緒の基盤、③他者とのコミュニケーション(対話や議論)の基盤

(2) 指導の充実

- ◆言語力の育成については、国語科を中核としつつ、すべての教科等での言語の運用を通じて、論理的思考力をはじめとした種々の能力を育成するための道筋を明確にしていくことが必要。

①知的活動に関すること

- ・事実を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝える技能を伸ばすこと
- ・自らの考えを深めることで、解釈や説明、評価や論述をする力を伸ばすこと
- ・考えを伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させる力を伸ばすこと

②感性・情緒等に関すること

- ・感性や情緒は、他者との人間関係の中で育まれていくものであり、美しい言葉や心のこもった言葉の交流は、人間関係を豊かなものに高めていくものであること

③他者とのコミュニケーションに関すること

- ・個々人が他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど、お互いの考えを深めていくことが人々の共同生活を豊かなものにすること

- ◆発達の段階が上がるにつれて、具体と抽象、感覚と論理、事実と意見、基礎と応用、習得と活用と探究などについて認識や実践ができる水準が変化。それに応じて、指導内容や言語活動の特色付けをしていく必要がある。

次期学習指導要領において外国語教育を通じて求められる資質・能力の改善(イメージ)

学習指導要領において、③言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション(対話や議論等)の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、上記①、②の観点からも求められる資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、外国語教育を改善・充実

- ・・・身近で簡単な話題について友人に質問したり質問に答えたりする能力(小学校)
- ・・・互いの考えや気持ちなどを理解し、根拠を持って英語で伝え合う能力(中学校)
- ・・・幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力(高等学校)
- ・・・相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度(小学校)
- ・・・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度(中学校・高等学校) 等

思考力
判断力
表現力
等

学びに
向かう力、
人間性等

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

目的の設定・理解

目的に応じた
発信までの方向性の決定・言語活動等の見通し

目的達成のための言語活動
(技能統合型)

言語・内容の両面におけるまとめと振り返り

次のコミュニケーションにおける
目的の設定・活動へ

※必ずしも一方通行の流れではない

聞くこと

読むこと

話すこと

書くこと

語彙・表現・文法等

複数の技能を統合した活動

プロセスの中で働く思考・判断・表現等のうち、特に重視すべきものの例

思考

意見や考えの形成

目的の理解

目的に応じた情報の抽出

関連する知識や情報の検索

課題について得られた知識や情報を整理・統合

知識や情報を利用して自分の意見や考えを形成・整理

意見や考えの吟味と再構築

多様な見方や考え方に基づいた次の思考プロセスへ

判断

目的の明確化と必要な情報の把握

目的達成に必要な情報の選択

様々な見方や考え方の共通点・相違点等の評価・選択・決定

自分の考えや主張を適切な語彙・表現・文法を用いて効果的に伝えることの意味決定

表現

情報間の関係性を構成

目的に関する論点・解決策の整理

流暢さと正確さのバランス

インタラクションによる表現

目的に応じて伝え合うことを通じた表現の深化・多様化

「聞くこと」及び「読むこと」を活用した「話すこと」及び「書くこと」による言語活動（図表等による表現も含む）

技能統合型の活動を通じた英語による思考力・判断力・表現力を育成

※2技能以上を効果的に組み合わせて統合的に活用（例）（聞いたり読んだりして得た情報について、その概要や要点を的確に把握し、自分の意見や考えなどとの共通点や相違点などを示しながら論理的・批判的に話したり書いたりして表現する力、与えられた話題について、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力、相手からの問いかけに応じて自身の経験や考えを適切に述べる力） など

「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能をバランス良く総合的に育成するとともに、複数の領域を統合的に活用し、情報や考えなどを的確に理解したり、目的に応じたコミュニケーションのプロセスを通じて適切に伝えたりする思考力，判断力，表現力。

(例)**〈「聞くこと」の領域〉**

- まとまりのある英文、比較的長い対話文、スピーチ、プレゼンテーション、講義などを聞き、複数の情報を整理するなど思考・判断して、必要な情報を得たり概要や要点を把握したりする力。

〈「読むこと」の領域〉

- まとまりのある英文、比較的長い対話文、英語で書かれた図表などを読み、複数の情報を整理・統合するなど思考・判断して、必要な情報を得たり概要や要点を把握したりする力。

〈「話すこと」の領域〉

- （発表）多様な考え方ができる話題や時事問題・社会問題などについて話して説明するとともに、自分の意見や考えなどをまとめ、適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に話して伝える力。
- （やり取り）身近な話題や知識のある話題について、情報や意見について交換するとともに、自分の意見や考えをまとめ、適切な語彙・表現・文法を用いて伝え合う力

〈「書くこと」の領域〉

- 多様な考え方ができる話題や時事問題・社会問題などについて、自分の意見や考えなどをまとめ、論点や根拠を明確にしながら、適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に書いて伝える力。

〈技能統合の領域〉（4技能のうち2技能以上を統合的に活用）

- 聞いたり読んだりして得た情報（英文や図表など）について、その概要や要点を的確に把握するとともに、自分の意見や考えなどとの共通点や相違点などを示しながら、論理的・批判的に話したり書いたりして表現する力。 ※「技能」と「領域」の考え方については引き続き検討

小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について

改訂版(案)

2016年1月12日現在 取扱注意

別添6

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表。

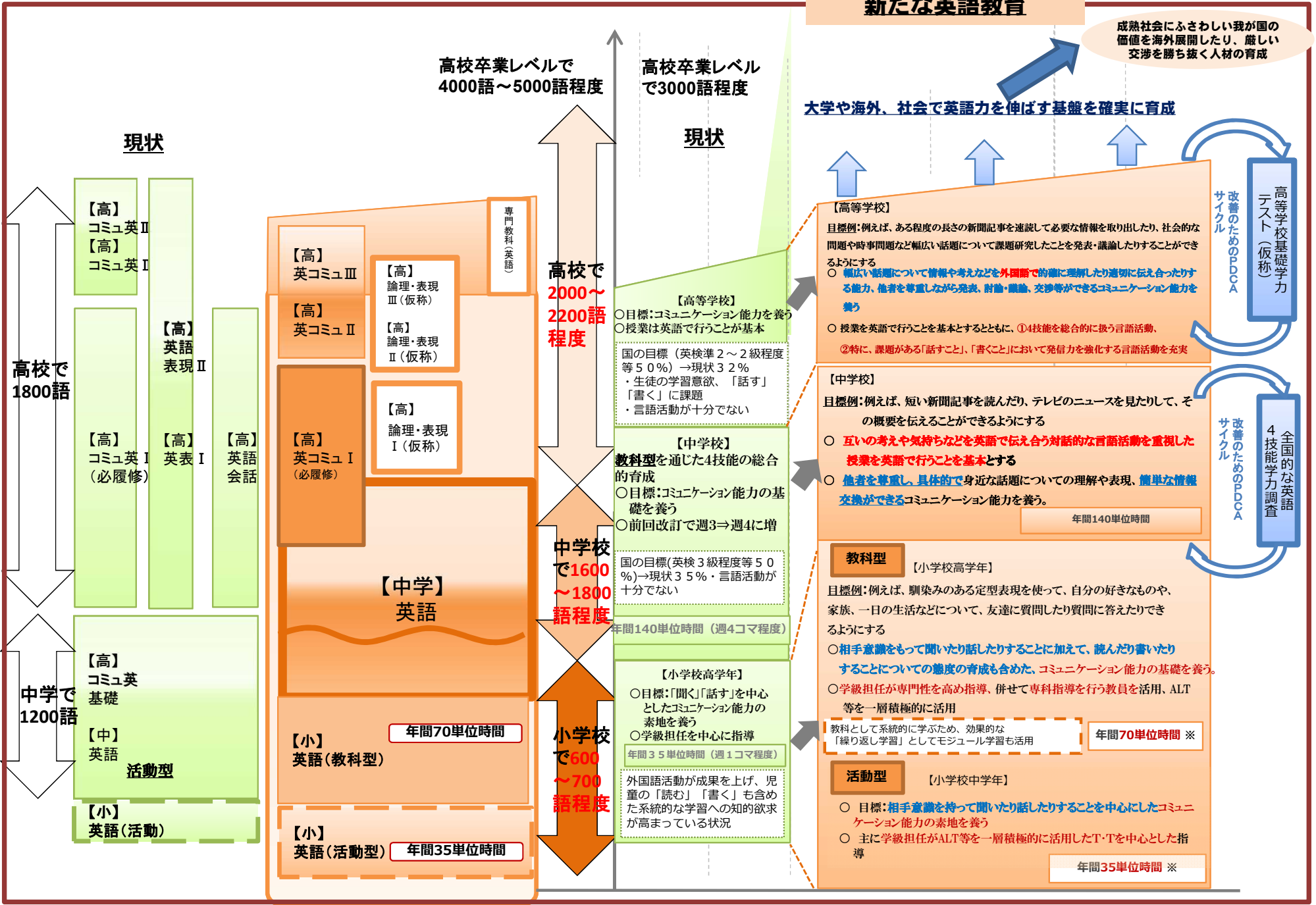
英語教育の抜本的強化のイメージ

(秋以降、外国語WGにおいて専門的に検討予定)

※具体的な小学校の授業時数については、年内~年明けを目的に教育課程全体の構成とともに検討を進め、一定の方向性を提示

CEFR

C1
B2
B1
A2
A1



小・中・高等学校を通じた外国語教育のイメージ（案）

平成28年4月26日
教育課程部会
外国語ワーキンググループ
別添7

【高等学校】

- ◎外国語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、表現し、伝え合ったりすることができる資質・能力を育成する。
- ①外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。
 - ②場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり適切に表現し伝え合ったりするコミュニケーション能力を養う。
 - ③外国語の学習を通じて、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
➤ 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【中学校】

- ◎外国語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、簡単な情報や意見交換ができる資質・能力を育成する。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。
 - ②具体的で身近な話題についての理解や表現、簡単な情報や意見交換ができるコミュニケーション能力を養う。
 - ③他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
➤ 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校高学年】

- ◎言語や文化の違いを知り、多様なものの見方や考え方の大切さに気付いて、相手意識をもって聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりする資質・能力を育成する。
- ①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、言語の仕組み（音、単語、語順など）や、その背景にある文化を尊重するようにする。
 - ②身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
 - ③相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
➤ 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校中学年】

- ◎言語や文化の違いを知り、多様なものの見方や考え方の大切さに気付くとともに、相手意識を持って聞いたり話したりする資質・能力を育成する。
- ①外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付く。
 - ②外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う
 - ③相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
➤ 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

高等学校基礎学力テスト
(仮称)



全国学力・学習状況調査



外国語教育の目標と学習過程の全体像（案）イメージ

今後の方向性

次期学習指導要領では、小・中・高等学校を通じて①学校段階間の学びを円滑に接続し、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、一貫した教育目標(指標形式の目標)などを提示する方向で改善を図る。

別添7にあわせて
後日修正

各学校では、学習指導要領に基づき、技能ごとの学習到達目標を設定し、目標に沿った指導及び評価を一体的に実施

教科等の目標の改善・イメージ

	小学校中学年(活動型)	小学校高学年(教科型)	中学校	高等学校
教科等の目標	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、具体的で身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う
外国語活動・英語の目標	○自分や身の回りのごく限られた話題 ・話し手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを話すこと	○身近で簡単な話題 ・話し手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを話すこと ○アルファベットの文字 ・アルファベットの文字を読むこと・書くこと	○具体的で身近な話題 ・話し手の意向などを理解すること「~できるようにする」 ・自分の考えなどを話すこと ・書き手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを書くこと	(必修教科目)・身近な話題・4技能の基礎的な能力・日常的な話題、関心のある分野・情報や考えなどを的確に理解し、英語話者が理解できる程度の英語で適切に伝える(選択科目)・時事的な話題や社会問題を含む幅広い話題・情報や考えなどを的確に理解し、英語話者が理解できる程度の英語である程度流暢に伝える
指標形式の目標	(例) 話すこと ・自分や身の回りのごく限られたことについて自分の気持ちなどを伝えようとするようにする。 ・身の回りのごく限られたことについて、定型表現を使って質疑応答しようとするようにする。	(例) 話すこと ・身近で簡単なことについて自分の考えや気持ちなどを初歩的な英語やりとりできるようにする。 ・身近で簡単なことについて与えられたテーマについて初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。	(例)「話すこと」 ・日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。 ・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。	(例)「話すこと」 ・身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 ・身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 ・時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに自分の意見を加えて話すことができるようにする。
英語の学習過程	○ 目的の設定・理解 簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて話したり聞いたりして、外国語によるコミュニケーションを体験する。 ○ 目的達成のための活動 ・使用表現について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちを伝え合う活動 ※ペアワーク・グループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面 挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内 ・児童の身近な暮らしにかかわる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び [コミュニケーションの働きの例] ・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返し	○ 目的の設定・理解 馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできる。 ○ 目的達成のための活動 ・言語材料について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちを伝え合う活動アルファベットの文字や単語等の認識を深めたり、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴や語順に気付いたりする活動 ※ペアワーク・グループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面 挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内 ・児童の身近な暮らしにかかわる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び [コミュニケーションの働きの例] ・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返し	○ 目的の設定・理解 具体的で身近な話題の概要・要点を理解し、考えや気持ち等を伝えたり、簡単な情報交換をしたりする。 ○ 目的達成のための活動 ・言語材料について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちを伝え合う活動 ※具体的な場面にあった適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする ※小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面で使ったり別の意味で活用したりするなどスパイラルに学ぶ ※ペアワークやグループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面(挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話での応答) ・生徒の身近な暮らしにかかわる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事 [言語の働きの例] ・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返し ・言語面でのまとめと振り返り ・内容面でのまとめと振り返り	○ 目的の設定・理解 学校や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を理解し、情報や考えなどを伝えることができる ○ 目的達成のための活動 ・幅広い話題について情報や考えなどを的確に理解する活動 ・幅広い話題について発表、討論・議論、交渉などを行う活動 [コミュニケーション能力の設定] ・4技能の基礎的な能力(必修教科目) ⇒ 的確に理解し、適切に伝える能力(必修教科目及び選択科目) ・英語話者が理解できる程度の英語(必修教科目) ⇒ 英語話者が理解できる程度の英語+ある程度の流暢さ(選択科目) [話題の設定] 身近な話題及び日常的な話題や関心のある分野(必修教科目) ⇒ 時事的な話題や社会問題など(選択科目) [情報や考えなどのやりとりに関する言語活動の設定] ・スピーチやプレゼンテーション等 ⇒ ディベートやディスカッション等 ※小・中学校で扱った語いや表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる場面や文脈で活用できるようにするなど、スパイラルに学習する ※具体的な場面に即した適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする ※ペアワークやグループワークを学習形態の基本とする ○ まとめとふり返し ・言語面でのまとめと振り返り(流暢さを重視したスピーキングの後で行う正確さをより重視したライティング(質的な高まり)など) ・内容面でのまとめ振り返り(得られた情報や考えの整理など)

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習プロセス」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成

資質・能力の例

小学校(中学年)

簡単な語句や表現に慣れ親しみ、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりしようとするコミュニケーション能力の素地

小学校(高学年)

馴染みのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力の基礎

中学校

○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

高等学校

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

思考力・判断力・表現力、主体的・自律的な態度に基づく、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力の育成

指標形式の目標(「話すこと」の例)

小学校(中学年)

(例)
・自分や身の回りのごく限られたことについて、自分の気持ちなどを伝えようとするようにする。

小学校(高学年)

(例)
・身近で簡単なテーマについて、初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。

中学校

(例)
・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

高等学校

(例)
・身近な話題や知識のある話題について、簡単な外国語を用いて情報や意見を交換し合うことができるようにする。

【見方や考え方の例】

外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に表現し伝え合うこと

・対話的な学び
・深い学び
・主体的な学びへ

概念的な知識の獲得

思考力・判断力・表現力の育成

情意・態度の育成

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

【学習プロセス】

- ① 目的の設定・理解
- ② 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見通し
- ③ 目的達成のための言語活動(技能統合型)
- ④ まとめと振り返り

次の活動へ

※詳細は次ページ参照

「見方や考え方」の成長・発展

※必ずしも一方通行の流れではない

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

目的の設定・理解

目的に応じた
発信までの方向性の決定・
言語活動等の見直し

目的達成のための言語活動
(技能統合型)

言語・内容の両面における
まとめと振り返り

資質・能力の例について

○簡単な語句や表現に慣れ親しみ、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりしようとするコミュニケーション能力の素地

小学校
(中学年)

①【目的の設定・理解例】
簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて話したり聞いたりして、外国語によるコミュニケーションを体験する。

③【目標達成のための活動例】
使用表現について理解したり、練習したりする活動や、お互いの考えや気持ちを伝え合う活動・言語や様々な文化の大切さに気付く活動
【言語の使用場面の例】
・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内
・児童の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び
【コミュニケーションの働きの例】
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

④・内容面でのまとめと振り返り（得られた情報についての感想やコミュニケーションを体験しての感想など）

○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活等について、友達に質問したり、質問に答えたりするコミュニケーション能力の基礎

小学校
(高学年)

①【目的の設定・理解例】
馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできる。

③【目標達成のための活動例】
言語材料について理解したり練習したり、アルファベットの文字や単語等の認識を深めたりする活動・互いの考えや気持ちを伝え合う活動や、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴や語順に気付いたりする活動
【言語の使用場面の例】
・特有の表現がよく使われる場面挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内
・児童の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び
【コミュニケーションの働きの例】
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

④・言語面でのまとめと振り返り（活用した言語表現等についての気づきなども含む）
・内容面でのまとめと振り返り（得られた情報やそれについての考えやコミュニケーションを体験しての感想など）

○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、お互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力

中学校

①【目的の設定・理解例】
具体的で身近な話題の概要・要点を正確に理解し、考えや気持ち等を適切に伝えたり、簡単な情報交換をしたりできる。

③【目標達成のための活動例】
言語材料について理解したり練習したりする活動
・互いの考えや気持ちを伝え合う活動
※具体的な場面に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする
※小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面や文脈で活用
【言語の使用場面の例】
・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話
・生徒の身近な暮らしに関わる場面家庭生活、学校での学習・活動、地域行事
【言語の働きの例】
・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える相手の行動を促す

④・言語面でのまとめと振り返り（話して伝えたことをより正確に書くなど）
・内容面でのまとめと振り返り（受信したことや発信したことの整理など）

○日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力

高等学校

①【目的の設定・理解例】
日常生活や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を的確に理解し、情報や考えなどを適切に伝えることができる。

③【目標達成のための活動例】
・幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動
・幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合う活動
・幅広い話題について発表、討論・議論、交渉などを行う活動
【コミュニケーション能力の設定】
・4技能の基礎的な能力（必修修科目）
⇒ 的確に理解し、適切に伝え合う能力（必修修科目+選択科目）
・英語話者が理解できる程度の英語（必修修科目）
⇒ 英語話者が理解できる程度の英語+ある程度の流暢さ（必修修科目+選択科目）
【話題の設定】
身近な話題及び日常的话题や関心のある分野（必修修科目）
⇒ 時事的な話題や社会問題など（必修修科目+選択科目）
【情報や考えなどの発表・やりとりに関する言語活動の設定】
・（発表）スピーチ、プレゼンテーション等
・（やり取り）ディベート、ディスカッション等
※小・中学校で扱った語いや表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる場面や文脈で活用できるようにするなど、スパイラルに学習する
※具体的な言語の使用場面に即した適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする
※ペア・ワークやグループ・ワークを学習形態の基本とする

④・言語面でのまとめと振り返り
【例】流暢さを重視したスピーキング活動の後で、正確さをより重視したライティング活動を行うことによる言語の質的な高まり
・内容面でのまとめと振り返り
【例】得られた情報や考えなどを整理することによる思考の深化